

## インターネットトピック: 迷惑メール対策推進協議会

日本における迷惑メール対策法の一つに「特定電子メールの送信の適正化等に関する法律」(略称:特電法)\*1があります。この法律は、平成14年(2002年)に成立し施行されましたが、3年以内に見直しをすることが条文に含まれていることもあり、これまで平成17年(2005年)、平成20年(2008年)と二度改正されてきました。

いずれの法律改正の前にも、現行の迷惑メール対策全般について検証を行うとともに、今後の方向性を検討を行う目的で、「迷惑メールへの対応の在り方に関する研究会」が開催されました。

直近の研究会は、2007年7月から開催され、2008年8月にそれまでの検討結果をまとめた、最終取りまとめが公表されました\*2。

その最終取りまとめの中で、総合的な迷惑メール対策推進のための体制の必要性が述べられており、特電法の国会審議においても同様の主旨の内容が附帯決議されています。

迷惑メール対策推進協議会は、こうした背景から2008年11月27日に設立されました\*3。

設立の目的や参加メンバーなどは、事務局である(財)日本データ通信協会のウェブページを参照して頂ければ分かりますが、産学官それぞれの有識者からなる幅広い構成員となっています。この第一回の会合では、迷惑メール追放にむけた決意と具体的に講ずるべき措置がもじられた「迷惑メール追放宣言」が採択されました。

さらに、協議会発足時に迷惑メール対策に関する実務的な問題や対策の検討を行うために、構成員の一部からなる幹事会が設置されました。

幹事会では、様々な議論と平行して幹事会メンバーを中心として、迷惑メールの現状や様々な対策について総合的にまとめる目的で、「迷惑メール対策ハンドブック」を執筆しました。2009年10月2日の2回目の協議会の会合(親会)で、このハンドブックが承認され、10月9日に「迷惑メール対策ハンドブック2009」が公表されました\*4。このハンドブックは、迷惑メールの現状から制度的な対策、技術的な対策、様々な組織による対策についての活動などが網羅的にまとめられています。

執筆者:

櫻庭 秀次(さくらば しゅうじ)

IJ ネットワークサービス本部 メッセージングサービス部 サービス推進課シニアプログラママネージャ。メッセージングシステムに関する研究開発に従事。特に快適なメッセージング環境実現のため、社外関連組織との協調した各種活動を行う。MAAWGメンバー及びJEAGボードメンバー。迷惑メール対策推進協議会及び幹事会構成員、送信ドメイン認証技術WG主査。(財)インターネット協会 迷惑メール対策委員。

\*1 特電法: [http://www.soumu.go.jp/main\\_sosiki/joho\\_tsusin/d\\_syohi/m\\_mail.html#ordinance](http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/joho_tsusin/d_syohi/m_mail.html#ordinance)

\*2 「迷惑メールへの対応の在り方に関する研究会」最終とりまとめの公表: [http://www.soumu.go.jp/menu\\_news/s-news/2008/080828\\_8.html](http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/2008/080828_8.html)

\*3 迷惑メール対策推進協議会: [http://www.dekyo.or.jp/soudan/anti\\_spam/index.html](http://www.dekyo.or.jp/soudan/anti_spam/index.html)

\*4 迷惑メール対策ハンドブック2009」の公表について: [http://www.dekyo.or.jp/soudan/anti\\_spam/image/200910press1.pdf](http://www.dekyo.or.jp/soudan/anti_spam/image/200910press1.pdf)

さらにこの2回目の親会では、迷惑メール対策のための基盤技術である送信ドメイン認証技術の普及促進を目的に、「送信ドメイン認証技術WG」の設置も承認されました。

送信ドメイン認証技術は、これまでIIRでも「メッセージングテクノロジー」で何度か解説してきましたが、既存のメール配送の仕組みとの互換性を保つ一方で、その利用方法及び効果については、正しく理解しなければ誤解を生じかねない部分が幾つかあります。

こういったことから、協議会の送信ドメイン認証技術WGでは、正しく技術を理解し導入してもらうための資料をまず整備するとともに、まずは協議会構成員を中心に導入してもらうための説明会なども開催しています。

WGでは、これらの作業を通して得られた情報を元にさらに広く普及させるための施策を検討しています。

本トピックの報告者は、親会及び幹事会の構成員として、迷惑メール対策推進協議会の活動に貢献しています。

送信ドメイン認証技術WGの設置に際しては、WGの取りまとめる役割を担うことになりました。送信ドメイン認証技術は、IIRでも解説してきた通り複数の技術が存在し、それぞれの利点や欠点、導入にかかるコストなど幾つかの違いがあり、一つの技術だけで容易に目的が果たせるというものではありません。それぞれの技術の特徴を生かし、普及を促進するための段階的な導入や認証結果の利用方法など、実際のな面について検討を重ねています。

IJは今後も迷惑メール対策に関して、業界においても主導的な役割を果たしていきたいと考えています。

